

SKYMENU 活用授業 実践レポート

名前	澤 祐一郎	学校名	国分寺市立第四小学校
実施学年	第五学年	教科	特別活動
単元名	よりよいクラスに向けて～性別にとらわれず、主体的に自分の生き方を選択する～		

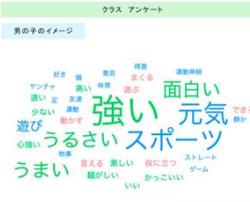
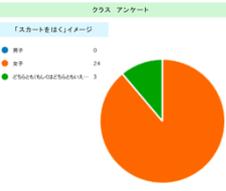
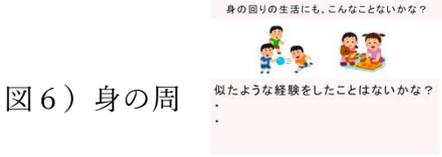
《学びを深めたいポイント》

- ・大人も日常生活の様々な場面で無意識のうちにジェンダーバイアスによるものの見方をしたり、言動を取ったりすることがある。子どもたちには、「私は男だから…」や「女の子なんだから…」というような視点で、やりたいことを我慢したり、活動を制限したりするのではなく、自分の考えや友達のやることに対して、尊重の気持ちをもって、互いを思いやりながら学校生活を送れるように本単元を計画しました。
- ・学習が子どもたちにとって「自分ごと」な内容になるよう、単元前に事前アンケートを実施し、自分たちが無意識にジェンダーバイアスを持っていることに気付かせる活動を取り入れました。また、自分の生活を振り返る場面では、友達の過去の経験や行動を聞いて、そのことに対して傾聴、共感する気持ちをもって話し合いに参加できるよう、言葉を掛けました。
- ・本単元で最も重視したのが終末部の「意思決定」場面です。理想のクラス像に向けて、自分ができることを、自分のできる範囲のこと（自分サイズ）で決められるように、SKYMENU の共同閲覧機能を活用したり、グループワークの時間（設定時間は子どもたちのグループに合わせて調整）を取り入れたりしています。あまりにも無理な内容や低すぎる内容ではなく、その子に合った方法を教師も子どもたちもみんなで設定していく雰囲気大切にしました。

《SKYMENU 活用のポイント》

- 〈1〉「発表ノート」でカードを移動させながら、友達と自分の「職業」や「行動」観の違いを話し合ったこと
発表ノートに、職業や行動を示すカード（パイロットや養護教諭、スカートをはくなど）を作成し、それぞれのカードを「男性（女性）のイメージ」、「どちらでもよい」の3つの枠のどれに当てはまるか分類させる活動をしました。友達と回答結果を話し合う中で、自分のもつジェンダーバイアスについて気づきを促す目的があります。
- 〈2〉事前アンケートを個別に配布したこと
無意識のうちにジェンダーバイアスをもっていることに気付かせる目的で、事前アンケートを実施し、結果を個別に配布しました。質問は「男（女）の子のイメージ」を自由記述にしてテキストマイニングで傾向を把握されるものや「スカートをはくイメージ」、「青色のイメージ」など選択肢にして、男女意識について気づきを促しました。
- 〈3〉「共同閲覧」で、友達の考えを参考にすること
自分で何をすればいいのかわからない、友達の考えも参考にしたいという声は他教科でも挙がっていたので、共同閲覧機能を活用し、作業途中でも一度資料を提出させ、他の人の意見も参考にできるようにしました。個別最適な学習に向けて、積極的に友達の意見のよさを取り入れるように言葉を掛けました。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	<p>○学級会議題の確認をする。 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女仲のいいクラスにしたい <p>○職業や生活の中で、男女を意識することがあるか、確認する。</p>	<p>図1) 学級会議題</p>  <p>図2) 職業行動の男女イメージ</p> 	<p>※SKYMENUに学級会議題を配布、提示する。(図1)</p> <p>※職業や行動について「男性(女性)のイメージ」、「どちらでもよい」に分類する。(図2)</p>
展 開	<p>○日常生活を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・番組(NHK『u&i』)を視聴し、感想を交流する。 ・男女意識についてのアンケート結果について確認し、クラスの現状を把握する。 ・身の回りのジェンダーバイアスや問題点に気付く。 ・学習課題を設定する <p>○学習課題の解決方法について話し合う。</p> <p>①「男女関係なく仲のいい」クラスとは、どんなクラスなのか、クラス像を話し合う。</p> <p>②目指すクラス像に向けて、自分にできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを短冊に記入する。 ・友達のアイディアを共有する。 ・全体でアイデアを共有する。 	<p>図3) 男の子のイメージ</p>  <p>図4) 女の子のイメージ</p>  <p>図5) スカートのイメージ</p>  <p>図6) 身の周りのジェンダー</p>  <p>図7) 共有する</p> 	<p>※「男(女)の子のイメージ(自由記述)」や「スカートをはくイメージ(選択)」、「青色のイメージ(選択)」など男女意識について事前にアンケートしたものを発表ノートで配布する。(図3～5)</p> <p>※日常生活において、「男(女)の子なんだから…」などの具体的な体験を振り返り、発表ノートに記述する。記述したものは提出し、「共同閲覧」で他の人の体験も見られるようにする。(図6、7)</p>

		授業風景	
まとめ	<p>○学習課題に対する自分の意思決定をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指すクラス像や個人のめあて、実践方法を決める。 ・グループで共有する。 ・全体で共有する 	<p>具体的な内容を考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ(時間) ・どのくらい(程度) ・だれと(人) 具体的に！ ・どこで(場所) ・何を(行動) <p>【例】まいにち 21時には布団で子供と寝る！</p> <p>図9) 修正した実践方法まとめ</p> <p>私は</p> <p>修正した具体的な方法をかこう！</p> 	<p>図8) 自分の実践方法設定</p> <p>※目指すクラス像に向けて、個人のみあてを設定し、実践できそうな内容(時間、程度、人、場所、行動など)を考える。記述したものは提出し、「共同閲覧」で他の人のものも見られるようにする。</p> <p>(図8) アイデアを共有して、修正する。(図9)</p>

《実践を振り返って》

本単元を通して、特別活動の「つかむ」、「さぐる」、「見つける」、「決める」それぞれの場面で子どもたちがジェンダーの問題に対して「自分ごと」として考え、よりよい学級にするために、自分は何ができるのか問い続けました。今回 SKY MENU を活用したことでメリットとして感じたことを挙げると、

①導入部:「発表ノート」でカードを移動させながら、友達と自分の「職業」や「行動」観の違いを話し合ったことで、様々な職業や行動に対して無意識のうちにジェンダーバイアスをもっていることに素早く気付くことができました。紙で書いたり、教具を準備したりする手間がないので、教材準備にかかる時間短縮になりました。

②展開部:事前アンケートを個別に配布したことで、資料を自分のペースで見ることができ、興味・関心の高い部分に注目して、読み取ったことを周りの子と話したり、話したりした内容をもとに、学習課題を設定することができました。



③終末部:自分の実践方法を設定する場面では、すぐにアイデアが浮かぶ子もいる一方で、何をすればいいのかなかなか設定できない子もいました。「共同閲覧」を活用したことで、友達の考えを参考にすることができ、また早めに課題を終えた子も、友達の意見を参考にして自分のアイデアを修正や加筆して質をより高める様子も見られました。